



# あおもり 町連だより

**第231号**

令和6年10月発行  
青森市町会連合会  
〒030-0801 青森市新町一丁目3-7  
TEL 017(734)2584  
FAX 017(734)2587

## 町会は市の協働パートナー

**新任町会長  
研修会開く**

### 回覧板から防災まで

令和6年度の新任町会長研修会が7月18日、アウガの男女共同参画プラザで開かれました。対象は昨年12月以降に初めて町会長になった51名で、このうち35名が出席しました。

はじめに松本副会長が15年前の初任当時を振り返り「町会で高額の買い物をする時は一人ではなく必ず複数で決めるように、という先輩町会長のアドバイスを今も実践しています。みなさんも町会運営の参考となる良い機会にしてほしい」と激励。研修は町会連合会の組織や町会長の仕事、先輩町会長からのアドバイス、青森市の補助制度の紹介の順に行われました。

町会連合会は昭和30年に設立されて今年で69年になり、旧青森市の368町会で構成されています。加藤事務局長は、町会は市の協働パートナーとしてさまざまな依頼を受けていること、総合防災訓練や交通安全行動の日などの行事への参加、災害時には支援が必要な方の手助け、交通安全施設の整備要望のとりまとめ、市からのお知らせ文書の回覧、除排雪について市との連



町会長として重責を担うみなさん

絡調整、小・中学校との連携など、たくさんの役目があることを紹介しました。

### 成り手不足に悩む

先輩町会長からのアドバイスは清水町会の高森町会長



アドバイスする高森さん

(北部第二区連合町会会長)が行いました。平成29年から町会長を務める経験をもとに町会の活動を一つひとつ紹介し、課題として役員の大半が他団体の役員も兼務して負担が集中、そのことが成り手不

足になっていること、役員が仕事を持つ現役の方がほとんどのため平日の活動が難しいこと、町内に空き家・空き地が増え安全対策を市に提案要望していること、ごみ集積所に他地区からの搬入なのか、分別しないごみ対策に苦勞していることなどを話しました。どこの町会も抱える悩みのように、新任町会長たちもうなずいていました。

### 補助制度相談を

最後に市民協働推進課の山田主査、三上主事が町会地域活動費助成金、地域コミュニティ活性化事業補助金、地域市民館運営助成金、地域市民館整備事業補助金、一般コミュニティ助成事業補助金など具体例を挙げて説明し、気軽に相談してほしい、と活用を呼び掛けました。

## 人が倒れた！ どうしたら良い？

### 女性部会が「緊急時の対応」学ぶ

町会連合会の女性部会(木村部会長)は7月30日、男女共同参画プラザで「消防が来るまでの緊急時の対応」について勉強会を開き、部会員7名が参加しました。

講師は青森消防本部警防課の田中主査、川上主任が務めました。通報から救急車が到着するまでの時間は全国平均で約10分。かつては7分ほどでしたが近年、出動数が増加したことなどから所要時間は長くなり、家庭や職場、街など現場に居合わせた方による救命措置が重要ということでした。

勉強会では「倒れている人を見つけた」という前提で訓練を開始しました。まず倒れた人の肩をたたき、声を掛けて反応を確認。大きな声で近くの人に協力を求め、役割を分担し、通報して救急車、AED(自動体外式除細動器)の手配と進め、胸骨圧迫とAEDによる心肺蘇生を試み、救急隊が駆け付けるまで続けることになります。

モデルを使って胸骨圧迫やAEDを操作した女性部会会員からは「思っていたより圧



モデルを使ってAEDの手順を確認

迫のピッチが速くて戸惑った」「最近、人が道で倒れたところに居合わせた。騒ぎを聞いて人は集まるけど慌ててしまい、何にも出来なかった」「この経験を次に活かさない」となどと話していました。

女性部会は昨年度も避難所で役立つ段ボールベッドの組み立て体験の研修会を行っています。

## 安全や防犯呼びかけ

### 地区連合町会が大会

地区連合町会は今年の夏も子どもたちや高齢者を交通事故や犯罪から守ろうと交通安全や防犯を呼び掛ける大会やパレードを行いました。主な団体を紹介します。

#### 【東部第七区(赤木会長)】

6月8日、小柳第三団地、唐橋、はまなす、けやき、褰懸の各町会から参加し、2会

場(ほろがけ福祉館、小柳小地域連携プラザ)で交通安全の講話、活動報告、歌やダンスなどを行いました。

#### 【南部第一区(長内会長)】

6月29日、ねぶたの運行を通じて交通安全を訴えました。

#### 【南部第六区(千代谷会長)】

6月29日、みなみ交番のパトカー、青森山田高校吹奏楽部の先導でそれぞれ区内をパレードしました。

#### 【南部第八区(横山会長)】

#### 【東部第五区(齋藤会長)】

7月20日、関係団体も参加し、街路でチラシを配布してパレード、ねぶた囃子が響き渡りました。

#### 【南部第七区(須藤会長)】

7月24日、筒井、東桜川、みちのくの各町会から市民センター中筒井分館に子どもたちも参加し、危険な場所を知るハザードマップを作り、交通安全のゲームなども行いました。



東部第七区の参加者



東部第五区はチラシ配布



南部第七区はゲームも



## 左堰町会

町会長 工藤 隆志

### 「常花志園」が自慢

北部第三区(後潟地区)5町会の一つがわたしたちの左堰(ひだりぜき)町会です。

旧松前街道沿いに広がる114世帯で構成。東に陸奥湾、西に目をやれば大倉岳の山並みが横たわり、南北にJR津軽線、国道の280号バイパス、北海道新幹線が通り抜けるのどかな水田地帯です。

### 水生植物の宝庫

町会の自慢は「常花志園」(じょうかしえん)です。池の周囲はミツガシワ、ショウブ、オモダカなど水生植物の宝庫で植物観察会ともなれば、市内外からたくさんの方が訪れ賑わいます。場所はバイパスを北上し、右手に左堰の町会看板が立つ十字路を左折し、新幹線高架橋を抜け山中を数百メートル進んだところです。

昭和14年から7年の歳月をかけて工藤常蔵さん、花さん夫婦が小屋を建てて住み、村人が農作業の疲れを癒し、親睦を図るような場所にしたい、と少しずつ整備しました。二人はその後、左堰の町会にそっくり寄贈し、常花志園の呼び名は夫婦の名と、その志に感謝して付けられました。



にぎわう芸能発表会



常花志園、桜も名所に



毎戸回って長寿、豊作祈願

### 入学時に桜の植樹

整備管理する人も少なくなり、いつとき荒れ放題になっていました。今から25年前、

当時の町会長が町会の誇りでもある園地を守ろうと立ち上がり、雑草刈りや散策の道を整え、町内の子どもが小学校に入学するときには記念に桜を植樹するようにしました。その子どもが何十年か後に花を咲かせた桜の姿を見れば、生まれ育った左堰に愛着を覚えてくれるでしょう。常蔵さん、花さんもきっと喜んでくれると思います。

少子高齢化が進み、空き家問題、町会行事の担い手不足など、他の町会と同様に難題を抱えています。町内には水の神さま十和田神社、獅子頭が「鹿」の稲荷神社があり、長寿、厄除け、豊作、商売繁盛を祈願する獅子まわしの伝承が残っています。正月にトランプ大会、2月に車座で当たりくじを引くドップ引き、お盆には町内ねぶた運行、芸能発表大会も盛んでした。

### 4年ぶりに夏祭り

近年は参加する小学生がいなくなりねぶた運行は行っていませんが、今年はコロナ感染症防止のため休んでいた夏祭りを4年ぶりに開催し、町民の皆さんには大変喜んでいただきました。

これからも町内行事に参加するひとがいる限り、みなさんと一緒に元気な町づくりにまい進したいと思っています。

### ホームページをご覧ください

青森市町会連合会のホームページは町会の広報紙も掲載しています。パソコンでもスマートフォンでもご利用いただけます。アドレスは次の通りです。  
<https://aomori-choukairen.jp>

下記二次元バーコードからもアクセスできます



## いにしへの「町名」「通り」を知ろう

近現代編⑬

## 観光通りと八甲田大橋

国道NTT交差点から南へ延びる国道103号は「観光通り」と呼ばれています。市営バスの路線名にも使われているため、馴染みのある呼称ではないでしょうか。

この道には「八甲田・十和田ゴールドライン」という愛称もあります。青森市と八甲田・十和田地域を結ぶ観光道路として大きな役割を担っています。

## 十和田観光道路の構想

明治41年(1908)、文人・大町桂月が発表した紀行文により、十和田の名は全国的に知られるようになりました。しかし、当時は県内各地から十和田へ至る道路が整備されておらず、地域にとって大きな課題となっていました。

明治44年には青森市選出の県会議員・松森豊が県会において県内各地から十和田へ至る道路の整備について意見を述べました。「観光通り」と経路は異なるものの、青森市から十和田へ至る道路の必要性についても言及しています。

## 省営自動車の運行

大正時代、日本各地で公共交通機関としてバスが普及すると、鉄道を運行する鉄道省も昭和5年(1930)にバス事業を開始しました。昭和9年には青森駅と十和田地域を結ぶバス路線「十和田線(のち十和



青森駅前のバス乗り場  
(昭和30年頃撮影、歴史資料室蔵)

田北線と改称)」を開設しています。現在はJRバス東北が「みずうみ号」として運行しており、令和6年(2024)8月に路線開設90周年を迎えました。

路線開設のきっかけは昭和8年秋に青森県が鉄道省の山下雅実自動車課長を十和田へ招いたことでした。奥入瀬溪流、酸ヶ湯、蔦温泉などを巡った山下は、趣のある景観と県の対応に好感を持ち、十和田地域が国立公園の候補地となっていることにも注目して、路線開設を検討したといえます(『省営自動車十年史』)。

開設当初は青森駅から堤橋-妙見間(現在の県道27号)を経由して運行されましたが、途中で道幅の狭い箇所があり、観光シーズンには交通渋滞の発生が問題となりました。

## 新道建設に着手

そこで、青森市から八甲田・十和田地域へ向かう新たな経路として税務署通りと妙見を結ぶ道路(現在の「観光通り」に相当)の整備が計画されました。『青森市議会史』によると、昭和29年に「妙見-浦町間道路」の建設に関する議

村上 亜弥編集委員  
(市民図書館歴史資料室)

案が可決されており、道路整備に着手したと考えられます。

## 八甲田大橋の建設

税務署通りと妙見を結ぶ道路が青森操車場と交差する地点には1日に9~10時間も遮断機が下りる「あかずの踏切」があり、交通の難所となっていました。そこで、この地点には跨線橋が建設されました。

跨線橋は昭和44年に完成しました。建設中は「新浜田高架橋」「新浜田渡線橋」と呼ばれていましたが、橋の中央から八甲田の山々が雄大に眺められることから、竹内俊吉知事によって「八甲田大橋」と命名されました。

そして、昭和45年5月からは十和田北線のバスが八甲田大橋を経由するようになり、青森市と八甲田・十和田地域を結ぶ主要な観光道路として位置づけられるようになったのです。



八甲田大橋周辺(昭和50年撮影、  
国土地理院の空中写真)